

教化活動の協力形態について

——その方向性と可能性の探究——

岡 野 忠 正

今年度の研究テーマとして「教化活動の協力形態について」を上呈したのは、小生が、教化講習所研修科受講の折に、幾度か話題となった入受講生のOB会或いは同窓会を組織しようVという案にその端緒を發している。この案は、講習所修了後、その実践成果や実践上の問題点等について、討議や研修の場がないこと、また興味を持っている教化活動について、その研究方法や資料についての情報交換の場がないこと、そして、同じ目的を持つ教師と知り合う機会が僅少になってしまうこと等の種々の不安に基づいて発想されたものであった。しかし、この入受講案Vは、多くの賛同を得ながらも、実現されずに今日に至っていた。

昭和六十二年四月小生が智山伝法院の研究員を拜命するに当り、受講経験者諸師が待望して居られるであろう、此の入受講案Vを何んとか実現し得ないものかと愚考した結果が、頭書の研究テーマとなった次第である。法幸にも院長以下伝法院諸大徳の承認を戴くことができたので、研究成果というよりも企画案と現況の報告の記述になってしまふことと存ずるが、偏に諸大徳のご賢察にお縋りし、叱正を請うのみである。

「教化講習所修了生を含む本派教師の教化活動を如何に連繫し、どの様な協力体制を確立して、全体のレベルアップをはかるか。」その方向性と可能性の探究が今回のテーマの目的である。つまり、『生涯研修』の場をどの様にして

提供していくかということが、最終目的となる。

そのために、次の様な方法と目標を設定した。

(一) 昭和六十一年十月に作成された本山教学部の『教化講習所受講生名簿』(昭和五十二年度から六十一年度までの受講生の中から養成科三回受講済・研修科受講・特別研修科受講の諸師を抽出して作成されたもの)に基づいて、教化活動を基本とした詳細な名簿を作成する。

(二) 右の具体的実現のため、「教化活動に関するアンケート」を名簿記載者を対象として行なう。

(三) 作成された名簿に基づき、研修会を組織し(仮称 伝法院教化友の会)、テーマ別(例 法話・文書伝道・新しい行事・信仰相談・カウンセリングなど)の少人数の研究・研修グループを結成し、活動する。

(四) 活動の成果を年二回、公的な場に発表し、それぞれの教区単位の教化活動に役立てるべく努力する。

(五) 教区の実情(布教師会の有無・これまでの講習実績・地域の特色等)に即した教区講習会の開催と講師派遣。

(六) 本派全教師対象の教化活動についての普遍的協力体制(例えば教化相談室・教化実修センター)などの確立の可能性を模索し続ける。

以上であるが、各項について種々の問題点が指摘される。(一)の名簿であるが、資料1に参照して戴けるように、実数は僅か四十四名に過ぎず、その所属教区も全教区教の半数にも満たない。『少数精鋭』は優秀な専門家を育成するが、普遍性と全体性への道は遠くなる。また(二)のアンケートについては、資料2として掲載させていただいたので御参照願いたい。尚、六十二年十二月三十日付で送付し、御惠答戴いたのは三十名であった(回答率六十八パーセント)。(三)項については、回答を頂いた三十名の中、二十九名が参加を承諾して下さったが、入算面・企画の中

心をどこに置くかV・^他組織(布教師会など)との関係をどの様に位置づけるかV等の問題がある。(四)・(五)・(六)についても同様の難題が生ずるのは避け得ない。

これらの諸問題について、幾つかの対策を提示しておきたい。

まず、「教化活動に関するアンケート」を教師側の解答だけでなく、実地に幾つかの寺院に伺い、任職と檀信徒の双方の意見を聴き、より具体的なものにする。その成果と各々の研修成果とを、全体会の中で発表し、個人の経験・体験を全体の経験・体験として昇華させる。また研修会場を地方に移動することで参加者の便宜を図る。また、それに拠って地域の特色を理解し、地域性のある教化活動が展開される。さらに、他宗派の教化活動の動態調査、教化研究会議参観などに因り、本派宗団にとつて、より効果的な教化活動を検討し、宗団にインパクトを与えることができる。

以上の実績を示すことにより、予算面の問題・他組織との問題は、緩慢にはあるが、解決されていくものと思ふ。勿論、これらは参加し活動する教師の情熱によつて裏付けされるのであるが、……。

何れにしても、第一歩を踏み出さねばならない。昭和六十三年三月一日午後一時より、別院真福寺に於いて、第一回の会合が開かれる。その予定プログラムを資料3として掲示させて頂いたが、この結果を公的な場に発表し、それにより多くの熱意ある教師諸師が参加して下さることを切望し、この稿を了としたい。

講習所受講経験者に限らず、多くの青年教師の皆様の御意見を拝聴いたしたく存じて居ります。

合 掌

△資料Ⅰ▽ 智山教化講習所受講生名簿について

・養成科(三回受講済)

十五名(五名)

・研修科

三十二名(十八名)

・特別研修科

二十二名(二十一名)

六十一年度までの合計

六十九名(四十四名)

* () 内は重複を除いた実数

[教区別の趨勢]

9、北 陸	8、北 海 道	7、新 潟 第 三	6、新 潟 第 二	5、新 潟 第 一	4、長 野 北 部	3、長 野 南 部	2、九 州	1、高 知	教 区 名	人数
一	一	一	一	二	一	二	二	二		
18、上 総 第 四	17、埼 玉 第 十 一	16、埼 玉 第 九	15、埼 玉 第 二	14、栃 木 北 部	13、栃 木 中 央	12、栃 木 南 部	11、茨 城 第 一	10、福 島 第 一	教 区 名	人数
一	一	一	一	一	五	二	一	三		
	26、東 海	25、神 奈 川	24、山 梨	23、東 京 多 摩	22、東 京 北 部	21、東 京 南 部	20、下 総 印 旛	19、下 総 海 銚	教 区 名	人数
	三	一	一	四	一	一	三	一		

総 計 四十四名

* 参考資料 『教化講習所受講生名簿』(教学部S六十一・十・二十一作成)

△資料2V 教化活動に関するアンケート

Q 1 あなたの年令を記入して下さい。

歳

Q 2 あなたの寺院は次のどれにあたりますか。あてはまるものに○を付けてください。

- 一、檀家寺院 二、信徒寺院 三、檀家・信徒寺院

Q 3 あなたの寺院の檀信徒数は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものに○を付けてください。

- A、五〇戸未満 B、五十一～一〇〇戸 C、一〇一～二〇〇戸

- D、二〇一～三〇〇戸 E、三〇一戸以上

Q 4 あなたの寺院の年間収入はおおよそどのくらいですか。次の中からあてはまるものに○を付けてください。

- A、二〇〇万円未満 B、二〇一～三〇〇万円 C、三〇一～五〇〇万円

- D、五〇〇万円以上

Q 5 あなたの寺院では兼務寺院を持っていますか。

- 一、一ヶ寺のみ兼務 二、数ヶ寺を兼務 三、兼務寺なし

Q 6 あなたの居住地は次のどれにあてはまりますか。あてはまるものに○を付けてください。

- 一、師僧寺院 二、住職寺院 三、兼務寺院

- 四、寺院以外の住居 五、その他()

Q 7 あなたは布教師の称号をもっていますか。

- 一、もっている() 教() 二、持っていない

Q 12

法話実践についておたずねします。次のそれぞれについてお答えください。

(S六十一年十月～S六十二年九月までの期間)

兼務寺院				正住寺院				実践場所
その他	諸行事	法事	通夜・葬式	その他	諸行事	法事	通夜・葬式	
								対象
								時間
								年間回数

それでは法話で心がけていることはなんですか。具体的に記入して下さい。

法話で困ったことはありませんか。ありましたら具体的に記入して下さい。

Q 13

あなたの寺院では文書伝道を行っていますか。

一、いる

二、いない

一いるとお答えの方におたずねします。次のそれぞれについてお答えください。

兼務寺院				正住寺院			年間発行刊数	配布数	創刊年月
その他	掲 示 伝 道	ハ ガ キ	新 聞 (寺だより)	その他()	掲 示 伝 道	ハ ガ キ			

それはあなたの寺院独自のものですか。

A、独自のもの

B、既製のもの

Bとお答えの方におたずねします。それはつぎのどれにあてはまりますか。

一、本宗発刊のもの

二、一般のもの

Q 14 あなたの寺院では次のOA機器がありますか。

パソコン	ある	ない
ワープロ	ある	ない
ファックス	ある	ない
コピー機器	ある	ない
その他	ある	ない

Q 15 現在、あなたが教化活動として最も力をいれていることは何ですか。またその理由を教えてください。
具体的に

その理由

Q 16 教化講習所での研修に参加されて特に印象に残っていることを具体的にかいてください。

Q 17

伝法院では教化活動の情報交換と研修を目的とした「仮称伝法院教化友の会」を結成する予定ですが、あなたは参加したいと思いますか。

一、参加したい

二、参加したくない

一、参加したいとお答えの方におたずねします。上記の会の中にコース別の研修グループをつくり、共に勉強したいと思いますが、あなたが参加するとしたら次のどのコースを希望しますか。

H	G	F	E	D	C	B	A
カウンセリング	セミナー	生活・信仰相談	新しい行事	写仏・写経	掲示伝道	文書伝道	実践法話
希望する	希望する	希望する	希望する	希望する	希望する	希望する	希望する
希望しない	希望しない	希望しない	希望しない	希望しない	希望しない	希望しない	希望しない

ご協力ありがとうございます。みなさんの意見を参考に共に学びあえる「場」をつくりたいと思います。

△資料3▽ 『智山伝法院 教化友の会(仮称)』第一回会合プログラム(案)

一、開会のことば

二、主催者側あいさつ(院長または主任)

三、経過並びに趣旨説明

四、意見交換

1、活動の目的について

・生涯研修 ・研究活動 ・地域教化の展開と充実

2、活動の方向性について

・小グループでの研究と研修 ・研究テーマの設定

(例 実践法話・文書伝道・写経・生活信仰相談・悉曇・カウンセリング・新しい行事・その他)

3、活動の方法について

・週一回または月一回の研修

・年二回の研修成果発表(伝法院での発表会、現代密教掲載、教区講習会での発表など)

△全体会議▽

・会場は、適時決定する

(伝法院に限らず融通性をもつものにする)

4、会の名称について

5、会の代表者と事務局について

- ・グループ毎に代表者をおく
 - ・事務局は伝法院内に置く
- 6、会の規約について
- ・申し合わせ事項程度の文書
- 7、会の運営費用について
- ・会員の自己負担分と補助金との併用
- 五、決定事項確認
- 六、閉会のことば